

発行日： 2023年12月27日

環境経営レポート



第18版 <<2022.7.1~2023.6.30>>

- 第27期 -



We are one

さあ行こう！ 私たちのお客様は”地球”だ！！



キャラバン

目 次

- | | |
|-----------------------|--|
| ■ ごあいさつ 1 | ■ 環境経営計画 8 |
| ■ 事業活動の概要① 2 | ■ 経営計画の評価と今後の計画 9 |
| ■ 事業活動の概要② 3 | ■ 環境関連法規の適合確認 10 |
| ■ 環境管理組織図 4 | ■ 問題の是正及び予防措置 11
代表者による評価と見直し |
| ■ 環境経営方針 5 | ■ 環境活動サポーター活動 12 |
| ■ 環境経営目標・実績 . . . 6 | ■ 環境活動日々の取り組み 13 |
| ■ 3ヶ年環境経営目標 . . . 7 | ■ 緊急事態時の対応訓練 14 |



当社は創業以来たくさんの方々のお力添えのもと

産業廃棄物のプロフェッショナルとして歩んでまい

りました。

刻々と変化する環境問題に対し、私たちが属する

産業廃棄物業界は環境保全、循環型社会の形成等地球の健康状態を診断していかな

ければならない業界であります。

しかし、多種多様である産業廃棄物の再資源化を促進していくにあたり、多くの

方々の協力のもと組織的に活動していく事が必要不可欠であると考えられます。

そこで当社は、まず自社の環境意識の活性化を図る為、エコアクション21を活用

していこうと考えました。

おかげさまで13年が経過し当社の中にも少なからず環境意識が芽生え始め

「自分達になにが求められているのか、自分達になにができるのか」を問う事が

できるようになりました。

これからも良き相棒として、環境経営の指針として、人材育成のツールとして活用

していきたいと思っております。

今後も地球環境に関心を持ち、小さいことでも持続してできる”考働企業”として

皆様のお手伝いができたらと思っております。

代表取締役 富田 佳和

事業活動の概要

会社名		株式会社 キャラバン				
代表者		富田 佳和				
所在地		本社	静岡県藤枝市天王町三丁目9番42号			
		潮工場	静岡県藤枝市潮395-2			
		横内事務所	静岡県藤枝市横内2268			
環境保全関係者	経営責任者	代表取締役	富田 佳和			
	環境管理責任者	総務	杉本 晃一			
連絡先		TEL	054-645-2045			
		FAX	054-645-2046			
		E-mail	caravan@office.email.ne.jp			
		ホームページ	http://www.caravan-tai.com			
資本金		1000万円				
従業員数		31名（2023年6月現在）				
法人設立年月日 会社経歴		平成 8年7月	有限会社キャラバン設立			
		平成10年 11月	産業廃棄物収集運搬事業開始			
		平成15年7月	株式会社キャラバンへ組織変更			
		以降、現在に至る				
売上高		460百万円				
決算期		年1回	7月1日～翌年6月30日			
事業内容		産業廃棄物処理業（収集運搬・中間処分） 一般廃棄物処理業（収集運搬・中間処分） 浄化槽保守点検業				
組織図		取締役会				
		代表取締役				
		総務部	営業部	潮工場	運送部	浄化槽事業部
産業廃棄物収集運搬業（優良）		許可取得年月日	平成30年2月26日			
静岡県		許可有効期限	令和7年2月25日			
積替え保管	無	産業廃棄物種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃プラスチック類			
許可番号	第02202056777号		がれき類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず 動植物性残さ、ガラス・コンクリート陶磁器くず、ばいじん			
産業廃棄物収集運搬業		許可取得年月日	令和3年8月16日			
愛知県		許可有効期限	令和8年5月1日			
積替え保管	無	産業廃棄物種類	汚泥、廃油、廃酸、廃プラスチック類、紙くず			
許可番号	第02300056777号		木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、がれき類 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず			
産業廃棄物処分業（優良）		許可取得年月日	令和1年10月13日			
静岡県		許可有効期限	令和8年10月12日			
積替え保管	無	産業廃棄物種類	廃プラスチック類、金属くず、がれき類			
許可番号	第02221056777号		ガラス・コンクリート陶磁器くず、紙くず 木くず、繊維くず、動植物性残さ			
一般廃棄物処理業		許可取得年月日	令和4年4月1日			
藤枝市		許可有効期限	令和6年3月31日			
積替え保管	無	一般廃棄物種類	廃プラスチック、木くず、剪定枝			
許可番号	藤生環指第1-29号		陶器くず、可燃ごみ、鉄くず、紙類、蛍光灯			
一般廃棄物処理業		許可取得年月日	令和5年4月1日			
焼津市		許可有効期限	令和7年3月31日			
積替え保管	無	一般廃棄物種類	一般廃棄物（可燃・不燃）			
許可番号	第68-8号					
一般廃棄物処理業		許可取得年月日	令和5年4月1日			
藤枝市		許可有効期限	令和7年3月31日			
積替え保管	無	一般廃棄物種類	木くず・剪定枝、繊維くず、金属くず			
許可番号	藤生環指第2号		廃プラスチック類、水銀使用製品			
浄化槽保守点検業		許可取得年月日	令和4年11月2日			
静岡県		許可有効期限	令和7年11月1日			
許可番号	中健（28）第21号					
第一種フロン類充填回収業		許可取得年月日	令和2年12月7日			
静岡県		許可有効期限	令和7年12月6日			
許可番号	静岡102378					
保有設備		運搬車両	脱着装置付コンテナ専用車	8台		
			キャブオーバー（ユニック付）	4台		
			ダンフ	1台		
			バン（軽自動車）	2台		
			ダンフ（軽自動車）	1台		
		工場使用	キャブオーバー（軽自動車）	1台		
			パワーショベル	3台		
			回転フォーク	2台		
		ピンシバケット4mマスト	1台			

事業活動の概要② 処理施設

機械設備名	処理方式	機種名	電気容量	処理能力 t/日(8h)
破碎機(産廃・一廃)	破碎	SSC-2-50180-50	15kw	4.88
蛍光灯破碎機(産廃)	破碎	NHT-100	0.8kw	4.08
圧縮機(産廃)	圧縮	PBT-100-50型	37kw	254.96
圧縮機(一廃)	圧縮	SW-620型 油圧プレス機	5.5kw	4.72
破碎分離機(産廃)	破碎分離	H1 プラスターボ	14kw	13.39



破碎機



蛍光灯破碎機



圧縮機



破碎分離機

処理工程図

破 碎			
廃プラスチック類	受入	→ 破 碎	→ 委託先
金属くず	受入	→ 破 碎	→ 委託先
ガラス・陶磁器くず	受入	→ 破 碎	→ 委託先
がれき類	受入	→ 破 碎	→ 委託先
木くず	受入	→ 破 碎	→ 委託先
繊維くず	受入	→ 破 碎	→ 委託先
一般廃棄物	受入	→ 破 碎	→ 委託先
圧 縮			
廃プラスチック類	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
ガラス・陶磁器くず	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
紙くず	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
繊維くず	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
動植物性残さ	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
一般廃棄物	受入	→ 圧 縮	→ 委託先
破碎分離			
石膏ボード	受入	→ 破碎分離	→ 委託先

産業廃棄物処理実績

	単位	2020年度(第25期) 2020.7~2021.6	2021年度(第26期) 2021.7~2022.6	2022年度(第27期) 2022.7~2023.6
収集運搬量	t	10453	12513	13044
中間処理量	t	4191	4582	4558
再資源化量(自社)	t	301	345	316
最終処分量	t	0	0	0
中間処理後の処分量	t	3897	4220	4242
再資源化量(二次排出)	t	3503	3756	3767

一般廃棄物処理実績

収集運搬量	t	717.71	901.15	902.87
中間処理量	t	81.38	36.82	51.14

浄化槽保守点検実績

顧客件数	件	190	196	211
------	---	-----	-----	-----

環境管理組織図

キャラバン

経営責任者

環境管理責任者

潮工場・横内事務所・本社事務所

環境管理組織における機能

部門	機能
 経営責任者 富田 佳和	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。 当該管理者には現在の責務に関わり無く責任と権限を明示する。 ②環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経費諸資源（人材・資金 機械設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、 基本的な環境目標設定する。 ④環境システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ システム全体の見直しを行う
 環境管理責任者 杉本晃一	①環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的 を達成するために環境経営に関する委員会組織を運営する。 ②環境経営システムの構築・運用を円滑に行い、最高責任者による 見直しのためにその構築・運用に関する情報を最高責任者に提供 する。 ③生産・営業・事務部門の全体を統括して、全員参加による環境 経営システムの運用と改善を推進する。
 E A21事務局 後藤豊美	①環境管理責任者の指示に基づき必要な文書の管理、データの管理及び 対外的な窓口として補佐する。また指摘事項及び環境レポートの 最終チェック機関とする。
 中間処理場 青木 誠	①中間処理場の環境経営システムの運用及び管理に責任を負い、 場内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上をはかる。 ②処理加工機械の保守管理を兼務する。
 運送部 森 英樹	①環境管理責任者の指示に基づき、車両、機械の担当として補佐する ②エコドライブの推進体制の構築

株式会社 キャラバン

環境経営方針

基本理念

株式会社キャラバンは、廃棄物収集運搬業及び中間処理業を通して、地球環境問題への取組が、最重要課題と認識し、全社員が一丸となって、環境への負荷軽減に努めます。

環境経営基本方針

我社は、基本理念の実現に向けて以下のことを基本方針とします。

- (1) 収集・運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取組み二酸化炭素の削減につとめます。
- (2) 受託した産廃の再資源化に取組み、リサイクル率の向上を図ります。
- (3) 最新の公害防止技術・環境保全技術の導入に努めます。
- (4) 当社の事業に関連する環境の法規制を遵守します。
- (5) 廃棄物排出事業者への情報提供や分別の指導などに努めます。
- (6) 環境経営の継続的改善を誓約します。

制定 平成19年 5月29日

改定 令和4年 2月25日

代表取締役 富田 佳和

環境経営目標・実績

本社 二酸化炭素排出係数 0.404 使用
潮工場 二酸化炭素排出係数 0.416 使用

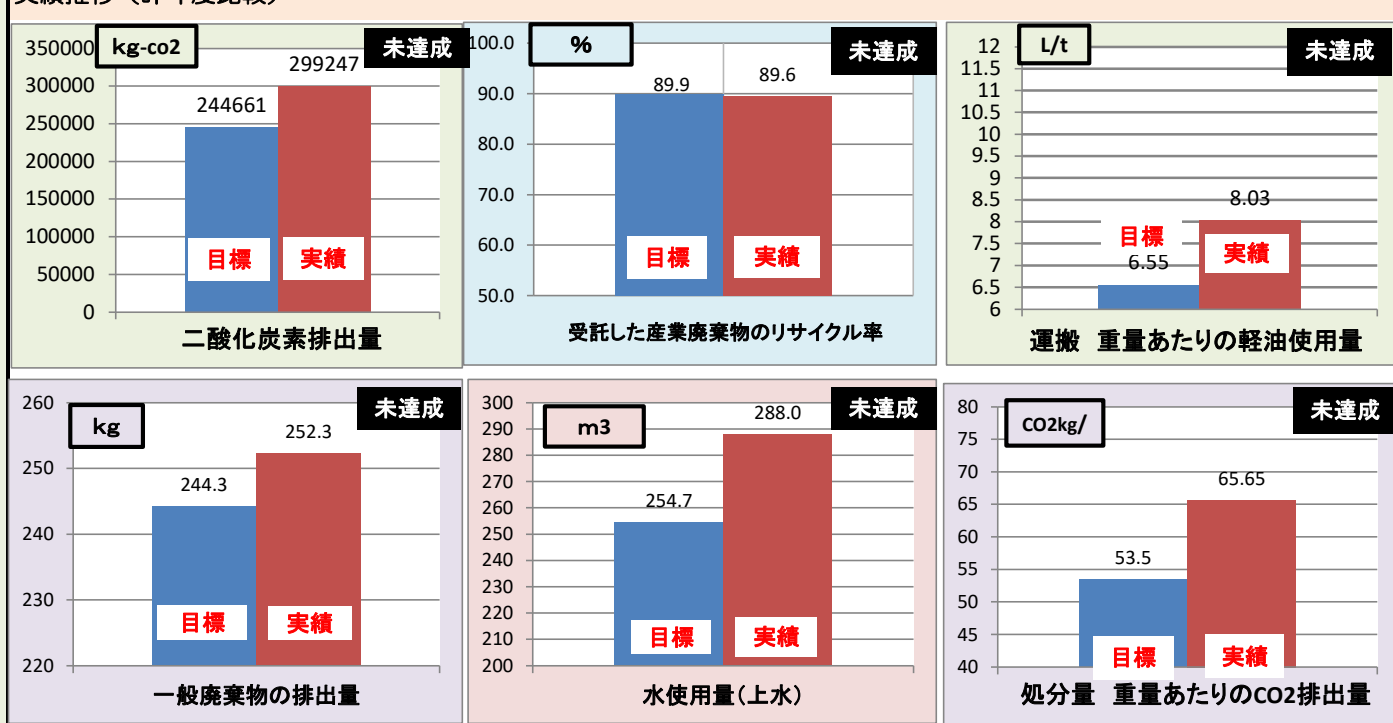
中期環境経営目標

項目	【基準】2021年度	2022年度		
二酸化炭素排出量削減 (kg-CO2)	244906	-0.1%		
購入電力(kwh)	25991	-0.1%		
ガソリン (L)	7848	-0.1%		
軽油 (L)	82180	-0.1%		
産業廃棄物収集運搬量 重量あたりの軽油使用量 (L/t)	6.56	-0.1%		
産業廃棄物処分量 重量あたりのCO2排出量 (CO2kg/t)	53.55	-0.1%		
都市ガス(Nm3)	0	-0.1%		
受託した産業廃棄物 リサイクル率 %	89.5 (二次排出処理含)	0.5% (二次排出処理含)		
一般廃棄物の排出量 t	244.5	-0.1%		
水使用量 m3	255.0	-0.1%		
情報提供及び分別指導	排出事業者への再資源化情報、3R推進の情報提供、グリーン購入の促進			

環境負荷実績・本年度目標及び実績

項目	【基準】2021年度	2022年度 目標	2022度 実績	目標比評価 (○×)
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	244906	244661	299247	×
購入電力(kwh)	25991	25965	23509	○
ガソリン (L)	7848	7840	6336	○
軽油 (L)	82180	82098	104691	×
産業廃棄物収集運搬量 重量あたりの軽油使用量 (L/t)	6.56	6.55	8.03	×
産業廃棄物処分量 重量あたりのCO2排出量 (CO2kg/t)	53.55	53.5	65.65	×
都市ガス(Nm3)	0	0.0	0	○
受託した産業廃棄物 リサイクル率 %	89.5 (二次排出処理含)	89.9 (二次排出処理含)	89.6 (二次排出処理含)	×
一般廃棄物の排出量 kg	244.5	244.3	252.3	×
水使用量(上水) m3	255.0	254.7	288.0	×
情報提供及び分別指導	排出事業者への再資源化情報、3R推進の情報提供、グリーン購入の促進			

実績推移(昨年度比較)



3ヶ年環境経営目標

二酸化炭素排出係数：本社0.404 潮工場0.465 使用

中間環境経営目標値

項目	【基準】2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量削減 (kg-CO2)	244906	244661	244416	244171
購入電力(kwh)	25991	25965	25939	25913
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
ガソリン (L)	7848	7840	7832	7824
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
軽油 (L)	82180	82098	82016	81933
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
産業廃棄物収集運搬量 重量あたりの軽油使用量 (L/t)	6.56	6.55	6.55	6.54
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
産業廃棄物処分量 重量あたりのCO2排出量 (CO2kg/t)	53.55	53.50	53.44	53.39
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
都市ガス(Nm3)	0.0	0.0	0.0	0.0
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
受託した産業廃棄物 リサイクル率 %	89.5 (二次排出処理含)	89.9 (二次排出処理含)	90.4 (二次排出処理含)	90.8 (二次排出処理含)
(削減目標)	-	(0.5%)	(1.0%)	(1.5%)
一般廃棄物の排出量 kg	244.5	244.3	244.0	243.8
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
水使用量 m3	255	254.7	254.5	254.2
(削減目標)	-	(-0.1%)	(-0.2%)	(-0.3%)
情報提供及び分別指導	排出事業者への再資源化情報、3R推進の情報提供、グリーン購入の促進			

2022年度（第27期）環境経営計画

目的	項目	環居活動項目	実施責任者
二酸化炭素排出量の削減	車両燃料の効率化	アイドリングストップ	井藤・増田
		自転車通勤の推奨	萩原
		エコドライブの推奨	井藤・増田
		車両ごとの燃料使用量管理をする。	八木
		ルート収集の効率化	森・増田
	資源・電力抑制	エアコン設定温度夏は28℃、冬は19℃の励行	杉本・青木
		クールビズ、ウォームビズ	後藤
		昼休み、時間外の消灯、P Cは待機電力	杉本
		コピー用紙の再使用（機密情報以外）	八木
		夜間照明時間の設定変更による節電	杉本
		遮熱対策（グリーンカーテンの実施）	後藤
		リサイクルトナーの購入	杉本
		本社事務所のFAXペーパーレス化	八木
		電力の見える化	青木
		電力の合理化	杉本
		フロン排出抑制法に基づく簡易点検	杉本・青木
自社の廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の抑制	優良産廃処理業者認定更新維持	杉本・岡村
		分別の徹底	八木・後藤
		分別コンテナ利用による再資源化推進	青木
		再資源化率の高い業者の選択	富田
		排出事業者への情報の提供	内野・杉本
		人材育成（資格取得）	富田
排水量の削減	水使用量の削減	節水意識の徹底	杉本・本多
		雨水貯水タンクの活用（散水）	本多・守屋
		節水表示	本多・守屋
グリーン購入	事務用品の再使用	エコマーク商品の購入推進	杉本
地域貢献	環境保全	工場周辺の美化活動	青木
		年1回の河川清掃の参加	青木
		不法投棄パトロール参加	杉本
		不法投棄撲滅街頭キャンペーン参加	杉本

環境経営計画の評価と次年度の取組内容

目的	項目	環境活動項目	評価		今後の取り組み
二酸化炭素排出量の削減	車両燃料の効率化	アイドリングストップ	○		継続実施
		空ぶかし厳禁、急発進、急ブレーキの禁止	○		継続実施
		エコドライブの推奨	○		継続実施
		車両ごとの燃料使用量管理をする。	○		継続実施
		ルート収集の効率化	○		継続実施
	資源・電力抑制	エアコン設定温度夏は28℃、冬は19℃の励行	○		継続実施
		クールビズ、ウォームビズ	○		継続実施
		昼休み、時間外の消灯、P Cは待機電力	×	業務のローテーション化	継続実施
		コピー用紙の再使用（機密情報以外）	○		継続実施
		夜間照明時間の設定変更による節電	○		継続実施
		遮熱対策（グリーンカーテンの実施）	○	実施期間延長	継続実施
		リサイクルトナーの購入	○		継続実施
		本社事務所のFAXペーパーレス化	○		継続実施
		電力の見える化	○		継続実施
		電力の合理化	○		継続実施
		フロン排出抑制法に基づく簡易点検	○		継続実施
自社の廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の抑制	優良産廃処理業者認定更新維持	○		継続実施
		分別の徹底	○		継続実施
		分別コンテナ利用による再資源化推進	○		継続実施
		再資源化率の高い業者の選択	○		継続実施
		排出事業者への情報の提供	○		継続実施
		人材育成（資格取得）	○		継続実施
排水量の削減	水使用量の削減	節水意識の徹底	○		継続実施
		雨水貯水タンクの活用（散水）	○		継続実施
		節水表示	○		継続実施
グリーン購入	事務用品の再使用	エコマーク商品の購入推進	○		継続実施
地域貢献	環境保全	工場周辺の美化活動	△	毎日できていない	継続実施
		年1回の河川清掃の参加	○		継続実施
		不法投棄パトロール参加	○		継続実施
		不法投棄撲滅街頭キャンペーン参加	○		継続実施

環境関連法規等の適合確認

1.環境関連法規の遵守状況

遵守確認

2023年6月30日

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。

法規・条例・規制	法令等の遵守内容	備 考	遵守状況
騒音・振動規制法	規制基準の遵守 (自主管理)	特定施設該当なし	-
		作業時間の遵守	○
建設リサイクル法	建設副産物のリサイクル	受託した建設副産物の 適正処理	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	【許可申請】中間処分業	静岡県 7年更新(優良)	○
	【許可申請】収集運搬業	静岡県 7年更新(優良)	○
	廃棄物排出事業所との 委託契約	委託契約書の締結	○
	マニフェストの管理	B・C2票 収集運搬業者返却	○
		B2・D票 排出業者返却	○
		E票 最終処分結果後 排出事業者	○
	マニフェストの期間内返却	90日以内又は180日以内	○
	マニフェストの保管	5年間	○
	投棄禁止	不法投棄は行わない	○
	保管場所への提示	60cm×60cm以上掲示	○
	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	○
	状況報告書の提出	静岡県提出 6/30まで	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する 条例	廃棄物適正処理と手続き	処理フロー・処理量等の 情報公開	○
藤枝市・焼津市廃棄物の処理及び清掃に 関する条例	一般廃棄物収集運搬・許可の 届出と更新申請	2年更新	○
浄化槽法	施設の設置	届出	○
	保守点検の実施	保守点検記録	○
	法定検査の実施	第11条検査	○
	【許可申】請浄化槽保守点検業	静岡県 3年更新	○
	帳簿の備え付け	記載して3年間保管	○
	契約状況の報告	静岡県提出 4/30まで	○
消防法	火災報知機の設置	安全確認	○
道路交通法	交通法規の遵守	安全運転	○
家電リサイクル法	法令の遵守	処理業者への適正処理	○
小型家電リサイクル法	法令の遵守	処理業者への適正処理	○
循環型社会形成推進基本法	3Rへの努力	廃棄物の再資源化推進	○
フロン排出抑制法	点検・漏えい時の報告	3ヶ月に1回簡易点検	○
プラスチック循環資源促進法	3R+Renewableの実施	プラスチックの分別収集及び再資 源化の促進	○

2.違反訴訟等の有無関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟等過去4年間ありません。

問題の是正及び予防措置

本レポート6ページの環境目標の実績（未達成）結果を踏まえた上、次年度の活動に反映します。

対象項目				原因	問題の是正及び予防措置
二酸化炭素排出量削減					
軽油（L）				広範囲の収集及び運搬に伴う収集運搬車両の走行距離増加の影響 待機時間のアイドリング使用	前回同様に収集運搬等の広域化に伴い走行距離の増大が背景にはあると思われるが、前回の走行距離の増大と軽油の使用量から比べると使用量の増大が目立っている。その理由として車の搬入時間制限などによる夜間・早朝等に移動して待機することによる待機時間中のアイドリング使用が原因にあると思われる。今後ドライバーの体調を考慮しつつ調整をしていく。
目標値	82098	実績	104691	昨年度より37293km、22511L増加	
産業廃棄物処分量 重量あたりのCO2排出量（CO2kg/t）				軽油使用量増大	処分量は昨年と変わらず各エネルギー使用量が減少した中で軽油の使用量のみが増大してしまったことで、重量あたりのCO2排出量が増大した。
目標値	53.5	実績	65.65		上記で述べた軽油の使用量が減少できれば必然としてこちらも解決できると思う。
廃棄物排出量抑制					
水使用量（上水）				汚泥運搬量増加に伴う洗車の頻度増大 事務所内冷却のため屋上スプリンクラーの導入	汚泥運搬の仕事が増えたため車両の洗車が不可欠で頻度も増大した。洗車をやめるわけにはいけないので上水ではなく雨水の活用を増やす。
目標値	255	実績	288		屋上スプリンクラーは途中から導入して実験中であるが電気代の減少がある為注視して継続する。

代表者による評価と見直し

□評価

今回は目標値の未達成が全体的に多いように感じる中、軽油の使用量が特に目立つように感じる。前年より走行距離は伸びたこともあるが、使用量が前回の増え方より多い。これは基本的なアイドリングストップや急発進・急ブレーキの使用が燃費低下を招いてる結果だと思う。ドライバーの入れ替わりのある中で、今一度基本に戻りアイドリングストップや急発進・急ブレーキ等の運転技術を見直し、向上させなければならない。軽油の使用量が低下すれば必然的にCO2の排出量等の目標も改善されて達成されるだろう。

環境管理責任者 杉本 晃一・岡村 布由樹

□総評

各項目未達成項目が目立つ中でも特に軽油使用量の増え方が今期の問題点にあげられる。問題の是正及び予防措置でもあったように、収集運搬が広域化するのは事業活動の拡大目的であり、顧客の要望に応える上で必要と考えるが、待機によるアイドリングが原因となっている点は大きく反省しなければならない。具体的な数値として前期の走行距離増加量 56,714 km、燃料使用量10,160 Lの増加に対し、今期は走行距離増加量 37,293 km、燃料使用量22,511 Lの増加であった。前期と比較すると走行距離の増加量と燃料使用量の増加量とが釣り合っていない。アイドリングストップは温室効果ガス排出抑制の必須事項となる為、来期までに改善する必要がある。一方、酷暑となる夏の時期などは適切な使用を心掛けてほしい。

2024年2月

代表取締役 富田 佳和

環境活動サポーター活動

実施日 2022年7月2日

当社の中間処理場がある、藤枝市潮地区は高齢の方が多く住んでいます。特にこの地区の河川は深く幅がある為高齢者の方は大変苦勞されています。その為、毎年環境整備の一環で全員で取り組む恒例行事となっています。

活動風景



清掃前

清掃後



環境活動日々の取り組み

工場周辺の環境保全活動



節電の取り組み



エアコンの設定温度管理



照明の間引き



ゴーヤのグリーンカーテン

節水



散水用 雨水貯蔵タンク



節水の表示

緊急事態時の対応訓練

油流出時を想定した除去作業訓練

